

情報学科の教育改善システム（PDCA サイクル）

1. 学科組織としての教育改善（PDCA サイクル）

情報学科では、「情報学科各会議の規約」に従い、以下のような組織的教育改善を行っています。

(1) 学科会議（P：Plan & D：Do） 毎月2回程度

学科会議は、学科全体の運営改善に関する計画・立案（P）、実行（D）を行う会議です。また、学部および学科FD会議からの計画・立案（P）に関する審議・実行（D）を行う会議となる場合もあります。

(2) 学科FD会議（PDCA & P：Plan） 毎月1回程度

学科FD会議には、学科の教育改善や授業改善に関する計画（P）・実行（D）・点検（C）・改善（A）を行う機能があります。主に授業科目について、シラバス等の授業計画を話し合い（P）、日常的に点検を行い（C）、改善案を話し合い（A）、実行しています。改善すべきことは、担当教員の話し合いですぐに実行に移せるようにしています。

(3) 第三者評価会議（C：Check） 教育プログラム改定年度

学科の教育および教育改善活動に関して、第三者の意見を収集します。学科の取り組みについて説明を行い、社会のニーズが反映されているか、教育の質、学生の質は保たれているか等の検討を行います。

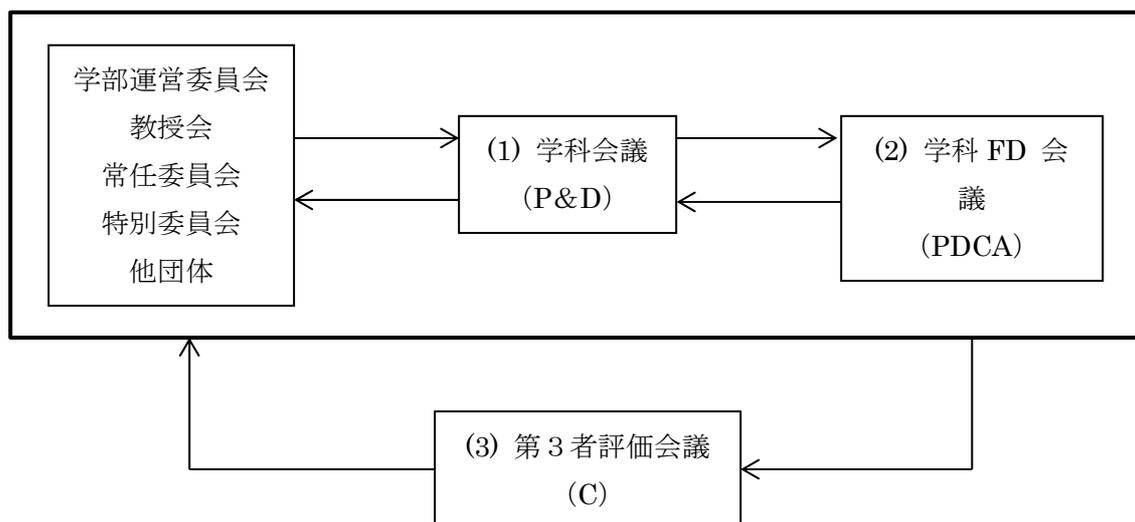


図 1. 情報学科の組織的教育改善システム

2. 教員個人としての教育改善 (PDCA サイクル)

情報学科では、個々の教員についても、以下のような PDCA サイクルにより授業改善を行っています。

(1) シラバス・授業デザインの作成 (P : Plan)

シラバスは、ただ単に専門知識を教えるのではなく、学科が掲げる学習・教育到達目標との整合性を重視しています。学科の学習・教育到達目標を踏まえ、授業全体の到達目標、各コマの到達目標を詳細に検討し、シラバスに記載します。また、授業デザインは、シラバスに即した授業を遂行するための具体的な日程、授業内容を修得するための細かいルール（学生との約束）を示すものとなっています。ただし、成績評価に関してはシラバスの記載を遵守しています。

(2) 授業の創意工夫 (P: Plan, D : Do)

授業では、シラバスに掲げた各コマの到達目標に達するように、様々な創意工夫を行います。魅力ある授業を行うには、日々の改善努力が重要です。

(3) 授業評価アンケート (C : Check)

学部が実施する授業評価アンケートにより、各セメスターの授業全体の取り組みについてチェックします。

(4) リフレクションペーパー (A : Action)

授業評価アンケート結果を検討し、次年度の授業改善につなげて行きます。

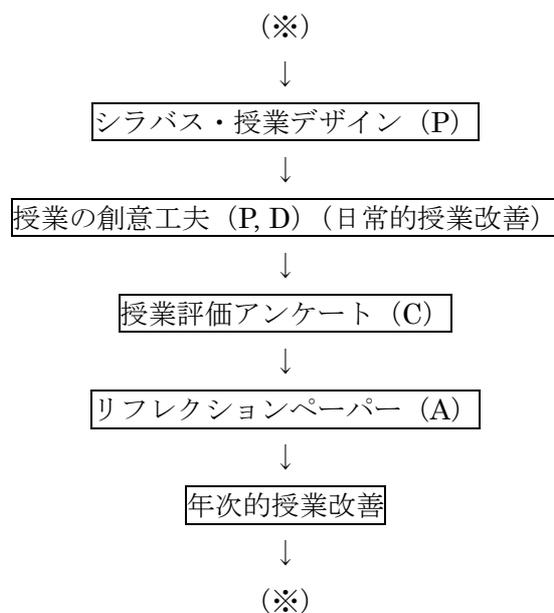


図 2. 教員個人の教育改善システム

3. 教員改善システムの改善 (PDCA サイクル)

情報学科では、学科の教育改善システムについて、以下のような PDCA サイクルによりシステムの改善を行っています。

(1) 教育改善システム (PDCA & P : Plan)

学科組織の教育改善を行うために 1. に示す教育改善システムに基づき組織的教育改善の計画および実行を行っています。

(2) 学部内評価会議 (C : Check) : 教育プログラム改訂年度

教育改善システムが適切に運用されているかどうか、他学科の教育改善活動の責任者等の意見を収集します。学科の取り組みについて説明を行い、学科の教育改善システムが適切に機能しているか、社会のニーズが反映されているか等の検討を行います。